NPO法人神奈川県自然保護協会　　設立１９６５年１０月１日

ニュースレター

No.83

2015年12月22日

目　　次

ページ

お知らせ・行事案内

第 15 回　さがみ自然フォーラム　野生の生きものとどう付きあうか　1

行事記録

創立 50 周年記念

「かながわの自然50年と未来へつなげる自然」とコンサート「酒井悦子自然をうたう」　2

講演と団体活動報告・展示　4

シンポジウム　かながわの生物多様性ホットスポット　6

厚木市環境フェアにブース出展　１０

県内自然保護ニュース

渋沢丘陵霊園問題／書籍紹介／他団体行事紹介　他

神奈川県自然保護協会からのお知らせ　１２

神奈川県自然保護協会　行事案内

写真：吉田文雄

２０１６年2月１１日（祝・水）～１５日（月）

会場:アミューあつぎ　5階アートギャラリー（展示）　7階　amyuスタジオ（講演ほか）　※入場無料

小田急線　本厚木駅東口から徒歩７分（イオン厚木店向かい）

日本全国の里山やそれにつながる農地では野生動物の進出が問題になっています。一方街の中では野鳥や昆虫の訪れが私たちに自然を感じさせてくれます。また、豊かな自然は様々なめぐみを与えてくれます。明日の生活をよりよくするために野生の生きものと私たちの関係について一緒に考えましょう。

《展示》

1　企画展　野生動物と私たち

①　歴史のなかで
②　丹沢のシカと人
③　社会の変化と野生の生きもの
④　将来の予測･打つべき対策

2　神奈川で活動する自然保護の仲間･学校の環境活動

3　かながわの生物多様性ホットスポット

ほか

《講演会》

11日（申し込み制定員150名）

13:00　開会
市長あいさつ
神奈川県自然保護協会理事長あいさつ

13:15　講演
神奈川県央の野鳥
藤井幹氏
（日本鳥類保護連盟保護共生室長）

14:00　講演
自然の中の私たちー楽しい動物の鳴きまねから自然学ぶ
四代目江戸家猫八師匠

14:30質疑　野鳥なんでも相談室

《市民や学校の環境活動》

13日　13:00から

厚木市内学校環境活動発表会
（発表校調整中）

スライドショー
市民が撮った自然の営みー厚木植物会ー
（厚木市郷土資料館と共催）

○主催／厚木市･NPO法人神奈川県自然保護協会　○実施主体/さがみ自然フォーラム運営委員会
○後援／神奈川県･神奈川県教育委員会･（公財）日本鳥類保護連盟･
（公財）日本自然保護協会　（公財）かながわトラストみどり財団

行事報告

～ NCS-K（神奈川県自然保護協会）50 周年記念～
はじめよう！かながわの自然を未来へ
つくろう！山・里・川・海と街をむすぶ「ひとネット」
第一弾　**「かながわの自然50年と未来へつなげる自然」とコンサート「酒井悦子自然をうたう」**
2015年10月12日･13日　新都市プラザ（横浜駅東口:そごう入口前広場）

後援：神奈川県　神奈川県教育委員会　（公財）日本自然保護協会　（公財）かながわトラストみどり財団

展示は神奈川の地域ごとの自然の特色と問題。今年の活動成果である生物多様性ホットスポット一覧と典型的な場所の写真による紹介。外来生物啓発コーナー、年表と写真でたどる神奈川県自然保護協会 50 年の歴史、協賛して協力してくださった県内の活動団体の活動報告ポスターなど盛りだくさんになった。

展示に花を添えたのは、１２日に行ったソプラノ歌手の酒井悦子さんによる自然をうたう２回のミニコンサート。また、コンサートステージのバックは県立藤沢西高校美術部の生徒の皆さんが大きな絵を作り引き立ててくださった。

会場周辺は人通りが多く、多くの方が足を止め質問をされるなどの交流もたくさん出来、有意義なイベントとなった。

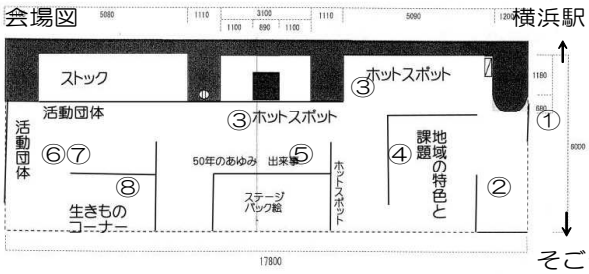
［展示の様子］

1

あいさつ

2

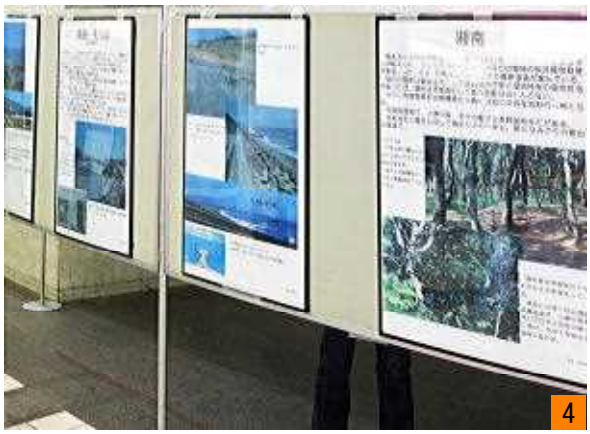
神奈川県自然保護協会紹介と生物多様性



そごう

3

生物多様性ホットスポット



4

県内　地域の特性と課題

5

神奈川県自然保護協会５０年のあゆみ

6

活動団体展示

7

活動団体展示

8

生きものコーナー（主に外来種）

協賛展示団体　　＜皆様ありがとうございました＞
あいかわ自然ネットワーク／厚木植物会／神奈川ウオーターネットワーク／カナダガン調査グループ／川名自然フォーラム／くずはの家えのきの会／自然塾丹沢ドン会／茅ヶ崎野外自然史博物館／津久井の自然を守る会（三浦）／秦野の自然と環境を守る会／ホタルのふるさと瀬上基金／山崎・谷戸の会／横浜・自然観察の森／横浜メダカの会／

［酒井悦子さんコンサート］

うたう酒井悦子さんとキーボード伴奏鈴木美香さん

（曲目）

♫）Over the Rainbow

♫）日本の四季メドレー（どこかで春が　　どじょっこふなっこ
春の小川　　茶摘み　　夏は来ぬ　　われは海の子　里の秋
もみじ　　虫の声　　冬景色　　雪　　雪の降る街を）

♫）花の名前がついている歌
のばら（シューベルト）　　エーデルワイス（ミュージカル）
忘れな草（カンツォーネ）

♫）見上げてごらん夜の星を　（会場の皆さんと一緒に）

13日、前日ステージだったところは参加者コーナーになり、参観した皆さんが自然に寄せる想いを書いて貼っていただきました。

書いて頂いた
作品例

第二弾

～ NCS-K（神奈川県自然保護協会）50 周年記念～

はじめよう！かながわの自然を未来へ

つくろう！山・里・川・海と街をむすぶ「ひとネット」

講演と団体活動報告・展示

2015年10月17日　かながわ労働プラザ

後援：神奈川県　神奈川県教育委員会　（公財）日本自然保護協会　（公財）かながわトラストみどり財団

５０周年記念行事は、実質的にということで、セレモニー的なものは行わない方針で臨んできた。

とは言うものの、この日が一番のメインになるもので、終了後は懇親パーティーも準備していたこともあり、開催案内状をお送りした所、議員の方々、行政関係の方々から多忙な中、御臨席頂き、また祝電祝辞を頂戴し感謝申し上げます。

会場には展示スペースも設け、新都市プラザでの展示のほとんども再展示し、参加者に見ていただいた。

次第は、新堀前理事長による講演のあと、“つくろう！山・里・川・海と街をむすぶ「ひとネット」”への歩みの一環として県内で活動する団体による活動団体報告を予定していた。

参加された多くの方は、新堀前理事長の講演を期待していたと思われるのだが、実は急に体調を崩されたとのことで、来て頂けず残念だった。

新堀氏のご子息、県会議員の史明氏（所用で後の懇親会だけ来られた）より皆様へのお詫びとよろしくとの言葉が伝えられた。

急遽、藤崎理事長が来場の方々に事情を述べて、日頃の新堀前理事長の想いを伝えるることから、これからの運営に思いを新たに努力したい旨の話をし、ついで、青砥副理事長が創立まもなくから関わった立場で５０年の歴史の中での思い出話をして講演に代えた。

活動団体の発表　前半

団体からの発表は、前半「渋沢丘陵を考える会」「ホタルのふるさと瀬上基金」「自然塾丹沢ドン会」「横浜メダカの会」で行われた。

質疑

ホタルのふるさと瀬上基金をめぐって、これから山場になるがホタルを守る会との連携をすることで活動を効果あるものとする方向性が話された。（今まで横浜ホタルの会とのつながりがなかった）

自然塾丹沢ドン会をめぐって、参加者の数や年齢層の幅を拡げることについて。都市部では自然を求めている人が多い。人とのつながりを活かしていくことが大事ではないか。

棚田について生物多様性の観点からぜひ湿田（冬水田んぼ）として管理してほしいという意見が出された。意見を出した方は神奈川にトキの居場所を作りたいという夢を持っている方だった。

よこはまメダカの会については、協力する人の輪が広がることと共に、系統を守って飼育することの難しさや、メダカという種そのものの危機にどう対処するかという問題提起もあった。

渋沢丘陵を考える会について、今後どうするかという質問に困難な状況の中であるが、開発業者がと県の癒着スキャンダルが新聞報道されたことをバネに粘り強くがんばりたいという決意が語られた。

活動団体の発表　後半

「あいかわ自然ネットワーク」「川名自然フォーラム」「茅ヶ崎野外自然史博物館」「山崎・谷戸の会」「かながわトラストみどり財団」の順で行われた。

質疑は、里山関係の団体が多かったせいもあり、活動の仲間を増やすことに関することに集中した。

子ども、若い人に楽しさを知って貰うには、きっかけが大事で、総合学習などでの学校の理解があると良い。

潜在する需要を掘り起こすために活動する場と、情報の発信が大事。

退職した 60 代で参加してくれる人が力になるが、そのような人は何かの原体験を持っているからではないか。

子育て中の若い人がアトピーなどのへの危機感が結びついて親子で参加する人がいる。

観察会や勉強会を地道に行って徐々に仲間を増やしていく。

などの話が交わされた。

【展示の様子】

横浜駅東口　新都市プラザとほぼ同じ展示を行い、休憩時間などに参加者に見てもらった。

新都市プラザから新たに参加した団体「座間のホタルを守る会」

【団体活動報告の様子】

９団体からの報告があり、活発な質疑応答があった。

報告を通して団体間の新たな交流連携の芽の生まれたようだ。

会場には藤沢西高等学校美術部の作品も掲示された。

【参加者の様子】

講演は、講師の急病により行われなかった、代わりに事務局から神奈川県自然保護協会５０年のあゆみについて、エピソードも交えながら紹介する話があった。

第三弾

～ NCS-K（神奈川県自然保護協会）50 周年記念～

はじめよう！かながわの自然を未来へ

つくろう！山・里・川・海と街をむすぶ「ひとネット」

シンポジウム

かながわの生物多様性ホットスポット

2015年11月14日　フジサワ名店ビル6階イベントホール

後援：神奈川県　神奈川県教育委員会　（公財）日本自然保護協会　（公財）かながわトラストみどり財団

生憎の雨天だったが、会場は立ち見も出る百人を超える参加者があった。

「かながわの生物多様性ホットスポット」については、これに先立つ横浜の２会場での展示により新聞等でも取り上げられたことが大きかったことがあると思われる。以下、当日配布レジュメ集を再掲する。

基調報告；
ホットスポット選定の経過と意義

村上雄秀（IGES 国際生態学センター）

日程

2012 年春　　ホットスポット選定メンバーの選定
植物・植生・哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・海域魚類・陸域魚類・昆虫

2012 年夏　　約 150　の県内 NPO・研究機関・博物館・自然愛好家などに調査用紙を配布

2012 年秋　配布した調査用紙を受領（最終的には 70 件 53 ヶ所）

2013 年春～ 2014 年冬　　審査・選定・確認作業

2015 年春　第 1 次最終リストとりまとめ

基準

カテゴリーＡ：希少種、ＲＬ種などが集中して産する地域（重み付け；県西・県東などの広域区分は加味）

カテゴリーＢ「機能的ホットスポット」：カテゴリーＡ以外で神奈川県や地域の生物多様性の保全上、特に重要な地域

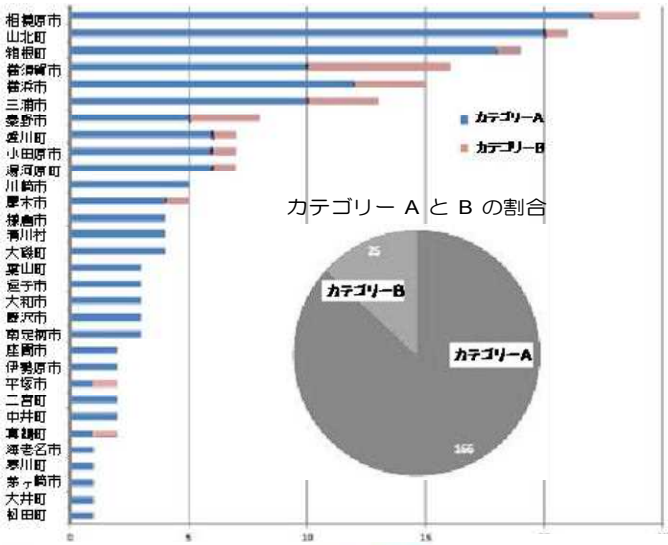
１．県内に少ないサギ類の集団営巣地や魚類の産卵場など、生息上の重要地域

２．典型的な生物相や相観を有する生態系

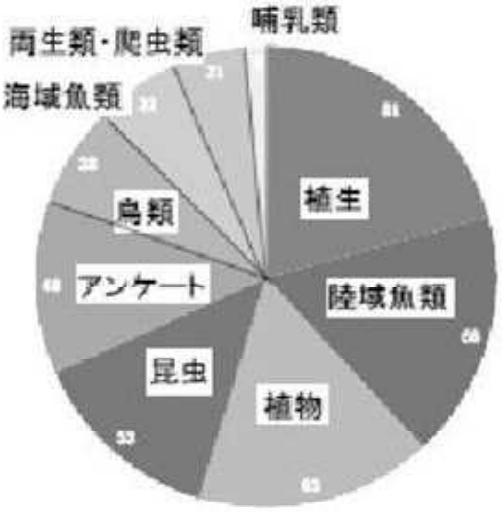
３．周辺環境からみて相対的に希少な生態系

結果　191 箇所を選定

地域別選定箇所



カテゴリー A と B の割合



生物群（ただし“アンケート”をのぞく）別割合

この後に、選定したホットスポット位置図とリストがついていますが、本ニュースレター前号（82 号）に掲載したものと同じものなので省略します。

植物について

勝山輝男（神奈川県立生命の星・地球博物館）

レジュメはありませんでした

昆虫におけるホットスポットとは？

高桑正敏氏（元神奈川県立生命の星・地球博物館）

（序論）昆虫相から見た神奈川県の特性

自然環境：相模湾・東京湾の海岸環境、西には丹沢山地・箱根火山・津久井などが連なる山地（下部は暖温帯、上部は冷温帯）、東には下末吉台地などの平坦地や低湿地、三浦半島などの丘陵地（暖温帯）の多様な自然環境に恵まれる（＝多種多様な昆虫相）。

⇒しかし、暖温帯の地域では自然環境が大幅に失われ、とくに止水・湿地・草地・干潟など非森林環境、ならびにかつて広がっていた里地里山環境などの喪失と劣化がいちじるしい（＝非森林環境と里地里山環境にすむ種の顕著な衰亡）。

⇒県内からの絶滅種：チョウ類ではツマグロキチョウ・クロシジミ・オオウラギンヒョウモンなど 8 種以上、トンボ類ではオオモノサシトンボ・ヒヌマイトトンボ・ベッコウトンボなど 9 種、水生甲虫類ではゲンゴロウ・ヒメミズスマシなど 10 数種、ほか多数。

生物地理：植物区系でいうフォッサマグナ地区とそはやき地区、関東陸奥地区、それに亜熱帯～熱帯気候の各要素が混在し、さらに伊豆箱根欠如要素（高桑，1980）・相模野欠如要素（高桑，1999）など欠如要素があって、複雑な昆虫相を形成する。

⇒日本の中でも顕著に箱庭的な昆虫相（＝変化の多い地域生態系）の典型を示す。

（本論 1）昆虫におけるホットスポット選定

序論からわかるように、①止水・湿地・草地・干潟など非森林環境や里地里山環境などにすむ種の多くが現在はレッドデータ（RD）種となってしまっている。このため、RD 種が現在も生息する場所がホットスポット A、または顕著な RD 種がいなくとも代表的な環境指標種が多く生息する場所がホットスポット B と見なされる。また、②生物地理的な面から県内では希少種となっている種も多く、これらの生息地はカテゴリー A の候補となる。

カテゴリー A の代表例：横浜市鶴見区二ツ池（①：トンボ類やアメンボ類はじめ水生昆虫多数の RD 種）、箱根町仙石原（②：オオルリハムシ・クロヘリウスチャハムシ・ガマヨトウなど県内では仙石原だけに知られる希少種・地域固有種 10 数種と多くの RD 種）、③藤沢市新林公園・川名緑地（③：重要な希少種ヤマトセンブリ 1 種の生息）

カテゴリー B の代表例：横浜市旭区こども自然公園（①：アカシジミ・ミズイロオナガシジミなどチョウ類と、ゲンジボタル・ヘイケボタル・ニホンカワトンボなどの里山種）

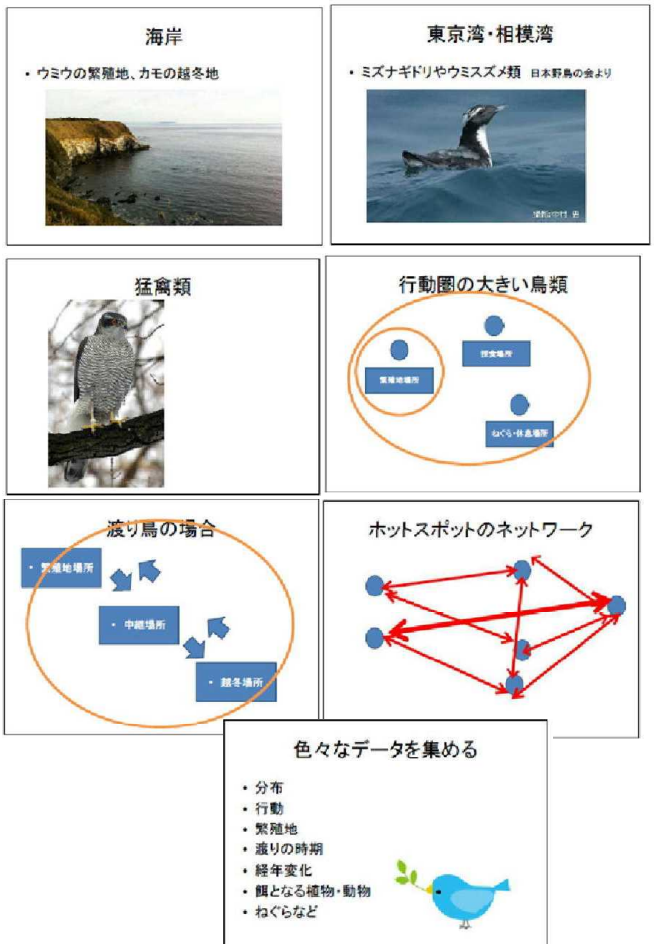
（本論 2）ホットスポットは未来に継承されるか？

・失われたホットスポット例：三浦市北川湿地（県地域環境評価書の最高ランク）

・失われつつあるホットスポット例：秦野市八国見山（県地域環境評価書の最高ランク＋今回ホットスポット A）

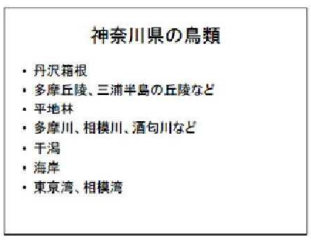
・ホットスポットに選定された場所＝未来への継承とは限らない！

・どうすればホットスポットを未来へ継承できるか？



鳥類について

石井　隆（日本野鳥の会神奈川支部）



陸域魚類について

勝呂尚之（神奈川県水産技術センター内水面試験場）

神奈川県の淡水魚類の現状

日本には北海道から沖縄まで多様性の高い豊かな自然が育まれ、河川や湖沼には様々な魚類が生息しており、独特の内水面生態系を構成している。私たちが住んでいる神奈川県でも、東の多摩川から西は千歳川まで、多くの河川がほぼ北から南へと流れ､東京湾または相模湾へと注いでいる。その源流は丹沢山塊に代表される急峻な渓流域と多摩丘陵に代表される谷戸であるが、中流および下流も比較的変化に富んだ環境であり、さまざまな魚類が生息していた。しかし、最近は、都市化にともなう水質汚濁、河川流量の減少、河川改修、土砂の不足や過剰堆積、外来種の侵入、非在来の種および系統群の放流など、多くの問題が発生し、在来の魚類は、非常に厳しい状況に直面している。その結果、生息域が退縮して絶滅に瀕している魚類が増え、自然水域から姿を消した種もいる。

近年、県や市町、漁協や市民団体などにより精力的な調査が行われ、魚類の分布とその資源動向が、地域や水系ごとに明らかにされつつある。最新の県レッドデータブックでは、絶滅種 2 種、野生絶滅種 2 種、絶滅危惧Ⅰ A 類 7 種（亜種を含む）、絶滅危惧Ⅰ B 類 6 種、絶滅危惧Ⅱ類 3 種、準絶滅危惧 10 種、注目種 4 種、情報不足 14 種が掲載されている。この数値は、ごく一部の魚種を除くと、ほとんどの種が分布域を縮小させ、憂慮すべき事態に直面していることを示しており、本県における淡水魚の現状は、全国的にも最低レベルの状態にある。

淡水魚類のホットスポット

今回の淡水魚類に関係するホットスポットの選定にあたり、まず、ＲＤ種の絶滅危惧Ⅰ類が生息する水域をホットスポット A としてピックアップした。具体的には、河川の生命線の源流域に生息するスナヤツメ、ヤマメ、ホトケドジョウなどを特に重視した。また、近年、急激に消滅している水田とその周辺水域についても、ミナミメダカを指標として、その生息地をリストアップした。しかし、ミナミメダカやヤマメのように、人為的に放流が行われている魚類については、その系統に注目し、在来の可能性のある水域のみを選定している。

他方、生物多様性の高い水域としては、河口も含めた出現魚類の多い大河川下流域や、アユやウグイなど主要な生息魚類の産卵場などにも注目したが、これらの水域のほとんどは、カマキリ（アユカケ）やカワアナゴなどの絶滅危惧種が生息する水域と重なっていた。

今後、ホットスポットを未来に継承するためには、県や市町村の行政的な施策だけでは不十分で、地域住民の皆さんがその価値を充分に認識し、自主的な保全活動を行うことが理想である。特に淡水魚類の場合は、現在、残っているホットスポットを保全することはもちろん、失われてしまった環境を復元する取り組みも重要であり、今後は人為的な復元地であるカテゴリーＣへの展開が期待される。

海産魚類にとってのホットスポットの意義

林　公義（元横須賀市自然・人文博物館）

希少種を中心にした海産魚類をある特定の環境(例:ホットスポット)から選ぶことは、実際には困難である。海産魚類の生活型は多様であり、多くの種が異なる環境を移動(日周移動、季節回遊など)しながら場の選定を行うものが多く、特異な環境に定着して生活するものの方が少ないためである。

また各種の生活史のある段階で異る場(一時的な環境)を利用するものもある。このような理由から、特定の「種」を指定して、ある環境をホットスポットに選ぶことには無理がある。

そこで今回の「海産魚類」を基にしたホットスポットになり得る環境(=県内海岸線の特定地域)を数十カ所選定したが、それらの場所は海産魚や同じ環境に生活する多くの海岸動植物(海洋生物全般)にとって優れた環境と判断される場所が主であることを理解いただきたい。　所謂、海の生物の多様性に優れた特定地域として、ホットスポットに選定したものである。

また「種」を指定したもののホットスポットとしては「クサフグの産卵場所」などがある。

またアユなど幼魚が集結し、湾奥の河川に遡上する優れた内湾も県内には存在するが、アユ(両側回遊性)は淡水魚類に位置付をしたので、環境の優れた河川(流域)としてのホットスポットとして扱った。

海岸線の区分としては、岩礁、砂浜、泥地・干潟、転石地などを中心としてあるが、岩礁にはガラ藻場が、干潟にはアマモ場などの海藻や海草の群生地が発達しているところもあるので、このような複合的な環境は、単一のものよりより優れた環境として評価してある。

これらの複合的な環境は多くの海洋生物の繁殖や摂餌場所として活用されるので、ホットスポットとしての選定にあたっては重要視した。

三浦半島の自然と
神奈川県の両生類・爬虫類

天白牧夫（NPO 法人三浦半島生物多様性保全）

●神奈川県の両棲類・爬虫類の現状

・爬虫類と両棲類では分布形態が大きく異なる。

爬虫類は本州で見られるほとんどの種が三浦半島に分布している。

両棲類は、特にサンショウウオ類で地理的隔離による種分化が進んでいるため、神奈川県は関東平野レベルの種組成を呈している。

・RD では他の生物種郡に例を見ない厳しい評価

爬虫類・両棲類ともに過半数が絶滅危惧種（合計 20 種が神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 掲載種）となっている。

両棲類が壊滅的な理由として、その生活史に沖積湿地や伝統的な水田が必要となるため、これらの消失によるものが大きい（市街地開発による直接的な消失と、里山管理の停止による環境要素の消失とがある)。他に、トウキョウサンショウウオなどでは外来生物による影響もあるが、現時点で特定の種を根絶させるほどのインパクトではない。

爬虫類では、特にヘビ類で両棲類や小型哺乳類に依存する種の減少が著しい。また、ニホンイシガメに関しては生息地の消失と外来種との交雑により県下で種としての存続が難しい状態である。アカウミガメは偶発的な産卵情報があるものの、混獲等による個体の消失が著しく、持続的な状態とは言えない。

●両棲類・爬虫類のホットスポット選定にあたって
主な選定基準のパターン
　かなり大きく分けると以下の 3 区分となる。
多摩丘陵・相模平野：水田に依存するカエル類が多様である。多種が生息していることに加えトウキョウダルマガエル生息地区は特にカテゴリー A とした。
三浦半島：トウキョウサンショウウオの分布域であると共に、水田に依存するカエル類が多様である箇所は選定候補とした。また、イモリ等の生息している地区は特にカテゴリー A とした。
丹沢大山箱根：山地主体の地域であり、カエル類は本来的に乏しい。ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオが同所的に生息している地区は特にカテゴリー A とした。
トノサマガエルについては現段階では考慮できなかった。
　カテゴリー A の選定に適した爬虫類はニホンイシガメ、アカウミガメであるが、いずれも生息地と呼べるものは確認されなかった。ヘビ類の多様性についてはカエル類の多様性に準ずるものであろう。
　その他、カテゴリー A には満たないが爬虫類・両棲類相が比較的良好な水辺・緑地が一帯となっている地域はカテゴリー B とした。

●三浦半島のはなし
　・三浦半島の爬虫類・両棲類
　多摩丘陵と並び、谷戸（やと）を中心とした里山農村環境の歴史が長い。
　水田耕作停止によりイモリ・ニホンアカガエルが、河川道路整備によりツチガエル・ニホンイシガメが、既にまとまった生息地が存在していない。
　谷戸田の保全の機運は高まり、シュレーゲルアオガエル、ヤマアカガエル、トウキョウサンショウウオの消失はひとまず回避できそうだが…
　・三浦半島全体を見ると
　爬虫類・両棲類の選定生物群を含むホットスポットは５／２０である。これらの地域は、これからも人との関わりの中で生息に適した湿地の維持管理をされつづけていきたい。
　しかし多くは海や海浜食性を中心とした選定であり、藻場、干潟、海岸植生などが選定理由となっている。
・多くのみどりの持ち主は民間
　最近行政による保全の調整に関する機会は増えているものの、その多くは企業や農家など民間が所有している。
　　→いか持続性を確保するか

今後の取り組み

青砥航次（NPO 法人神奈川県自然保護協会副理事長）

１　見逃し補充
　更なるご協力を。
２　カテゴリー A の保全・監視
３　カテゴリー B の更なる発掘・補充
４　カテゴリー C として復元した自然・ビオトープについて今後取り組む方向で検討

パネリストの方々

基調報告　村上雄秀氏

植物　勝山輝男氏

昆虫　高桑正敏氏

野鳥　石井隆氏

あいさつ
理事長　藤崎英輔

前半司会 今後取組
青砥航次

陸産魚類　勝呂尚之氏

海産魚類　林　公義氏

両生爬虫類/三浦
天白牧夫氏

会場風景

（写真:会員　野村順治氏撮影ビデオより）

１０月２５日　厚木中央公園

厚木市環境フェアにブース出展

さがみ自然フォーラム運営委員が中心になって、外来生物を中心にした展示を行った。

３メートル近いオオブタクサの実物、ウシガエルや市内某所で繁殖を始めたアフリカツメガエルの実物は見る人を驚かせ効果的だった。

自然への想いを書きパネルに貼るコーナーやオオオナモミの実の的当てゲーム、アメリカザリガニにさわれるコーナーは子どもだけでなく、大人でも結構楽しむ人がいた。

外来生物啓発展示パネルは本協会製作のもののほか、川名自然フォーラム作製のものも使わせて頂いた。

神奈川県内自然保護ニュース

（このページに掲載する情報をお寄せください。）

渋沢丘陵・霊園問題

10・11 月の新聞記事から

この件、何故か報道しているのは毎日新聞だけです。

10/6　秦野・八国見山霊園開発：県ＯＢ天下り　秦野の市民団体、知事に中止要求「県政の信頼損なう」

10/15　秦野の大規模霊園開発問題:植物の移植検証「完成後」 八国見山霊園要望に県回答 「消極的」考える会批判

10/17　秦野の大規模霊園開発:甲虫類 1200 種の生息確認 開発進行、八国見山の大磯丘陵

10/24 秦野の大規模霊園開発：元県幹部、推進役に

11/13　事業者に６人天下り

秦野・八国見山霊園開発：実質主体、造園関連会社県ＯＢが取締役兼務、主導

10/15 と 11/13 の記事で、このようなことが強引な開発事業に関係しているとしたら、県行政に対する信頼が失われることになる。

一企業の利益を優先するために、公共財である自然が欲しいままにされるとしたら、一般市民への冒涜である。

県にはそのようで疑われることのないように、対処して欲しい。

渋沢丘陵を考える会、日置さんから 12/18　工事現場上空でノスリ 2 羽　オオタカ 2 羽を見たとのめーるがあった。

丹沢山山麓の広い地域を住処とするこの猛禽類たちが安心して生活できる環境がといいと思う。そこは人にとっても心安らぐところに違いないと思われる。

厚木市・（仮称）健康こどもの森

2016 年 3 月開園

厚木市中荻野にある荻野運動公園では、開園後の利用プログラムを見越して、試行的な自然観察会、一部谷戸田で昭和３０年代を指標にした水田作りなどおおこなう地元の人を含めたプロジェクトチームも活動を始めている。

谷戸田では、水田耕作を始めたところカヤネズミが数を増やしたらしいこと。

カヤネズミについては生息地の一部を水田にすることから、連続した隣接地に誘導するなど手立てを考えて耕作を始めたところ、稲の株の中に今まで以上の巣が見つかった。

また、稲刈り後、乾燥のためはさにかけたところ、その中に巣を作るものもいるなど、予想しなかった行動が見えた。昔はこのような状態で共存していたのかと感心。

耕作中は今まで見えなかった埋蔵種子で生き残っていたとみられる希少種の植物が見られるようになったなどやりがいが出てきた。

一方、水田のため作られた溜池に何者かが外来のカエルを放したことの対応を迫られるなどの問題も起きた。

2016 年 3 月この公園は開園するが、県協会としてはここが生物多様性ホットスポットに選定したことから、よりよい利用や管理を目指して関わりを持ちたいと考えている。

神奈川県　自然環境保全センター報告　No.１３　(2015.7 刊)

神奈川県自然環境保全センターが発行する研究報告。

内容

[原著論文]

冬期に給餌を利用した野生ニホンジカの採食行動／
山根正伸

植生保護柵を改修した囲いわなによるニホンジカの捕獲／谷脇　徹・永田幸志・鈴木　透・姜　兆文・山田雄作・山根正伸

[調査・研究報告]

フチジリ沢・クラミ沢流域（箱根外輪山北東麓）の水文地質について／横山尚秀、内山佳美、三橋正敏

西丹沢ヌタノ沢の流出特性／内山佳美・横山尚秀・三橋正敏

1970 年代の自然保護の機運の高まりから平成 9 年（1997 年）の水源の森林づくり事業開始までの神奈川県の森林・林業政策の展開／山中慶久

[資料]

2014 年 2 月大雪後のニホンジカの死体目撃情報の報告／馬場重尚・羽太博樹・前略真一・藤森博英

統合再生流域（東丹沢 2）におけるヤマビル個体数調査報告／松崎加奈恵・永田幸志・中澤志伸・落合正樹・藤田真義・佐田康信・羽太博樹・入野彰夫・山崎聡之・小林弘幸・丸　智明・前嶋真一

丹沢山地におけるササ３種の２０１４年の開花記録／永田幸志・田村淳

丹沢大山再生計画や水源環境保全・再生計画では、シカの保護管理や山の保水力を把握・向上させることが重要な課題である。その点でシカの個体数管理に欠かせない研究が地道に着実に進められていることに敬意を表したい。

また、資料として掲載されたヤマビル調査は、「ヒトおとり法」といい実際に人間が一定面積の中を歩いて調べるという涙ぐましい努力をされていることが分かった。その結果森林整備を行ったところでは因果関係ははっきりしないものの減少の傾向が見られるという希望の持てる結果に安堵した。

神奈川県自然保護協会の立場から５０周年を迎えるに当たり、自然保護側からの歴史は今回の展示のためにまとめたが、

１９７０年代から森林・林業政策をまとめられた山中氏の報告は行政側からの自然保護の歴史の側面を示すもので大変に参考になるものだった。

入手・閲覧については自然環境保全センターにお問い合わせを。

失われた北川湿地

なぜ奇跡の谷戸は埋められたのか？

サイエンティスト社刊　三浦・三戸自然環境保全連絡会編　2500 円（税別）

http://www.scientist-press.com/11_334.html　参照　電子書籍（税込 2000 円）もある。

北川湿地は、小網代の森に接し、水系こそ別にするが本来小網代とは一体になった自然景観域を構成していた。

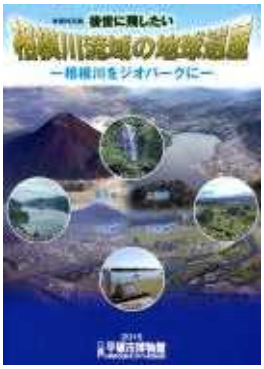
自然構成要素としては、小網代の森として保護された地区にはないものがここにはあり貴重な存在だったが現在は、残土捨て場として埋め立てられてしまった。

本書は、かつてここがどのような場所だったのかとして第１部、保護を訴える著者らがここにどのような未来を描き、裁判にまで至った活動の跡をたどる第２部の構成で作られている。

今、秦野市で霊園開発されている所と同様、ここも神奈川県地域環境評価書では A ランクに評価されていたにも関わらず、なぜ破壊されたのか。これからの自然保護運動を考えさせられる書である。

平塚市博物館　秋期特別展図録

後世に残したい相模川流域の地球遺産　ー相模川をジオパークにー



平塚市博物館は以前、相模川を源流までたどって歩くイベントを実施したことがある。

その時以来、平塚市域に限らず相模川に持つ関心が集大成された特別展が開催された。

図録では相模川の流域から 31 カ所を独自にジオサイトとして選定し、地史・生物的自然・人の歴史・文化・近世の土木遺産となるものなど総合的に写真を多用して紹介している。

相模川に関わるすべての人たちに格好の資料となると思われる。

会期は 10 月 17 日から 11 月 29 日までと既に終わっているが、図録は入手可能かも知れないので、博物館にお問い合わせを。

本　身近なヤゴの見分け方

「よこはま　かわを考える会」からの紹介です。

梅田孝氏（横浜市緑の協会こども植物園　ウエルカムセンター専門員）著　渡利純也氏写真

12 月 21 日　世界文化社刊　２３７６円

ヤゴと聞いて、どんな生きものが想像できますか？

ヤゴとはトンボの幼虫の俗称です。語源には諸説ありますが、幼虫に「ヤゴ」という特別な呼び名を与えていることから、昔から日本人にとって身近で親しまれている存在だということが分かります。

梅田さんに直接申し込めば、税送料込みで 2100 円で頒けていただけるそうです。

jiropon.ume@jcom.home.ne.jp まで　送付先住所、氏名、電話番号、冊数を明記して。

神奈川県立生命の星・地球博物館　企画展(入場無料)

日本のスゲ　勢揃い　――撮って集めた 269 種――

2015.12.19　～　2016.2.28

スゲ（カヤツリグサ科スゲ属）は、世界中から約 2000 種が知られており、植物の中ではもっとも大きなグループです。日本は狭い国土にもかかわらず 269 種が分布しており、高山の岩場から砂浜、森林から湿原まで、さまざまな環境にそれぞれ異なった種が生育しています。森林や岩場に生えるスゲの中には、極めて狭い範囲にしか分布していない種もあります。ある地域に限られて分布している生物種をその地域の固有種と言いますが、スゲ属植物には日本の固有種が約 90 種も含まれています。

当館には日本産スゲ属植物の標本が全種揃っています。今回は、多様な日本のスゲの姿を標本と写真で紹介します。

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

おしえて・話して！かながわの森と水　in 藤沢　２０１６年1月１６日（土）１３：３０～１６：００

会場　藤沢リラホール　藤沢駅南口　徒歩３分　（藤沢市鵠沼石上 1-1-15　５Ｆ）　入場無料　手話通訳あり

プログラム

〇ミニ講演　吉村千洋氏　東京工業大学大学院理工学研究科准教授

池谷和美氏　山北町森林組合

奥山恭代氏　猟師・自然食研究家

かながわの森と水について、様々な視点からの話。

〇水源環境保全・再生の取り組み紹介

第 3 期かながわ水源環境保全・再生　実行 5 カ年計画素案の説明・意見交換

託児サービスあり・1 月 12 日までに事前予約

045-210-4352　（事務局）神奈川県水源環境保全課

suigenkankyo@pref.kanagawa/jp

主催　水源環境保全・再生かながわ県民会議

～川名自然フォーラム　設立10周年記念～

まもろう藤沢市民のオアシス「川名清水谷戸」

記念イベントと２０１６年度総会

２０１６年2月１１日（木・祝）

会場：藤沢市民会館第 2 展示場

川名自然フォーラム

連絡先・事務局

〒 251-0045 藤沢市辻堂東海岸有賀方

TEL:０９０－４２４６－０９５１

FAX：０４６６－３４－０４３５

交流会・講演会・2016 年度総会・展示・記念誌発行

参加は無料です。ふるってご参加下さい。

＜交流会・会食＞　１１：００～１３：００　（受付１１：００～）

展示・懇談・会食・ビデオ「川名谷戸の四季」放映

会食に参加される方は 1 月 25 日迄に下記連絡先まで申込みをお願いします。（弁当代６５０円）

＜講演会＞　**第 66 回川名自然フォーラム**

１３：３０～１５：００　（受付１３：００～）

演題：神奈川の「生物多様性」からみた川名谷戸の価値

講師：亀山　章氏（日本自然保護協会理事長）

＜２０１６年度総会＞ １５：１５～１６：００　どなたでも参加できます。

＜パネル展示＞ 川名清水谷戸の風景・生きもの・活動(11:00 ～ 16:00)

＜記念誌発行＞ 冊子「川名清水谷戸の自然」参加者には無料で進呈

《後　　援》　ＮＰＯ法人　神奈川県自然保護協会

神奈川県自然保護協会からのお知らせ

ニュースレター、８月に８２号を発行して以来、間が空いて申し訳ありませんでした。この間５０周年記念行事や、紙面の関係で掲載できませんでしたが、元副会長の「柴田敏隆さんを語る会」が盛大に行われるなど色々ありました。

発行が空く分を補うこともあり、アドレスを把握している会員にＥメールによる情報発信をしています。

受け取っていない会員で希望の方はアドレスをお教えください。

ニュースレター　83号

2015年12月22日発行

特定非営利活動法人

神奈川県自然保護協会

〒243-0816　厚木市　林　5－15－10　青砥方

TEL&FAX　046-222-2356

http://www.eco-kana.org

Eメール：nacs-kana-office01@eco-kana.org

郵便振替口座　00230-0-112653　銀行からの振り込みは　ゆうちょ銀行(9900) 029（ｾﾞﾛﾆｷｭｳ)店　当座 0112653